

しまねの社会教育基礎講座 <浜田会場>

「集って」「楽しむ」からの動きをつくる

R6・7・10(水) : 大田市民センター

【講義】社会教育の役割と県社会教育で大切にしたいこと

県社会教育課 社会教育スタッフ調整監 福本 修司

1. 社会教育の基礎知識

- ・社会教育法第2条から
- ・学校教育と社会教育の比較
- ・生涯学習と社会教育
- ・社会教育とは（歴史と現在の動き等）



自分が置かれた場所で
つながりを感じながら
幸せに生きる

2. しまねの社会教育

社会教育の役割、大事にしたいこと 「未来に主体性をもって生きる人づくり」
○「社会教育流儀」である「集って」「楽しんで」「学んで」「動いて」「変えていく」
という流れを通して 「学びつなげる場」の形成

ふるさと教育

結果！しまねの子育て
協働プロジェクト

自己有用感・信頼感・所属感・貢献意欲等の高まり

新たな「学びつなげる場」の形成



3. 社会教育の担い手は？

- ・社会教育施設（公民館・図書館・博物館等）
- ・社会教育主事
- ・社会教育委員



4. 社会教育を進める皆さんへ

■住民の当事者意識の醸成（押しつけがましくなく
なんとなく乗せられて いつの間にか地域のことを考えるようになる）

集わせる仕掛け
楽しませる技
質の高い「学び」の場

地域課題に向き合い、自己実現に向かうやる気高める



（講義概要）

【事例発表・事例検討】「楽しいことするけえ来てみちゃん祭～三保まちサロン交流会」

浜田市三保まちづくりセンター 主事 高松 絵美 氏（令和5年度公民館等職員研修受講生）

公民館での会話（事業の種）

- ・自治会でサロン活動をしていないところがあるね。
- ・コロナの影響で地域の人が集まらなくなった。
- ・コミュニケーションの機会が減り、物忘れがひどくなったと聞いたけれど…
- ・何かいいことないかね？何か楽しいことないかね。

サロンを開こう！
仲間を探そう！

仲間の候補者
地区の民生児童委員
普段から関わりのあるSさん
地域の方
職場体験の中学生

- 第1回 打ち合わせ会議（ドキドキの顔合わせ）
これまでのサロンの様子紹介、チーム名をつくりたい
他の民生児童委員さんにも参加の呼びかけをすることに
- 第2回 実行委員会
民生児童委員の会へ出向き、全員に説明
- 第3回 打ち合わせ
「チーム名決め」「サロンの内容」

「サロン活動は必要だと思う」方が「やや」も含めほぼ全員だった。

「みんなで協力しよう！」に。
・どうやって広報する？
・次回の集合は、自分たちのグループラインで決定。

4名の出席だったが、和やかな雰囲気の中、内容等が決定。



仲間の変容（内容が決まってくると）

- ・ポロシャツを揃えよう。
- ・欠席者には内容を伝えておこよ。
- ・チラシを配るよ。
- ・小道具をつくってきたよ。
- ・楽しんで事前準備
- ・当日は自分たちでテキパキと準備・運営
- ・サロンの必要性を全員が感じた。
- ・「今年もやるんだろ」の声が…
- ・違うフィールドでも動き始めた。

まちセンのサポート
・仲間にチェックしてもらいチラシ作成
・会になかなか出席できない人に、直接説明
・他団体との連携調整

事業後のまとめ
・相手に思いや目的をしっかり伝えることの大切さ
・人と人をつなぐコミュニケーションの大切さ
・頑張りすぎない、みんなでやる
・ふり返り、ブラッシュアップの大切さ etc

仲間には
集うことの楽しさを体験してもらおう！
サロンに興味を持ってもらおう！

サロン活動の立ち上げの
きっかけづくりになれば…

仲間になってもらうために
・思いを伝える
・電話で伝える
・直接お願いする

サロン内容
昔のうた、介護予防体操、バランスの摂れた食事・アドバイス、保育園出し物、昔遊び、くじ引き

事例検討

「いいな！すごい！まねしたい！」聞いてみたいこと

- ・事業後、違うフィールドでの活動を始めた仲間がいた。
 - ・仲間、参加者が楽しんでた。
 - ・お願いされて始まったが、会を重ねるごとに自主的な動きになった。
- Q. 何かをしようとするとき、周りの反応は薄いのでは？と心配されたと思うが、この先進めるためには
⇒あたえられたミッションではないが、これは自分がやらなくてはならないと
言い聞かせている。最初は「お願い」の連続だった。



（発表一部紹介）

福本調整監から発表に対してのコメント

- ①「目的」と「手段」
サロンを立ち上げ実施するのが目的ではない。仲間たちをどう育てようかという視点で発表されていた。そのために、高松さんの見る視点と声かけが違ってくる。この動きにはこんな価値があるということとその都度伝えていた。結果、仲間が今年度も動き出し、新たな動きを作り出している。
- ②「社会教育」が行われる場所…
サロンはどちらかというと福祉のフィールドだが、その中に入っていく活動を通して、関わる人を育てる。その人たちが「地域力」として違うフィールドで活躍する。主体的に協力して頑張りようという人を生み出すのが社会教育だ。個人の幸せ、地域の幸せにつながっていく。

【演習】「自分にできることを考えよう！」

◇住んでいる（勤務している）地域の現状（良さ・問題点）を付箋に書き、グループで話し合う

- ・地域を大切に思っている
- ・60・70代が元気！
- ・熱いレジェンドさんが多い
- ・書店がなくなった
- ・行事の継続が難しくなった
- ・若い人は外に目が向いている
- ・学校の統合が進みそう
- ・まちセンだよりが年1回
- ・地域活動の担い手が高齢化
- ・地域づくりNPOの活発な活動がある
- ・高校生が地域活動をしている
- ・ゆるやかなつながりがある
- ・自然豊か
- ・人とのつながりが深い
- ・現役世代の参加が少ない
- ・活動するメンバーの固定化
- ・一歩が出ない
- ・耕作放棄地対策
- ・商店が少ない
- ・交通の便が悪い
- ・新しいことをやりたがらない
- ・地域文化がたくさんある
- ・顔がわかる
- ・街並みが素敵



◇地域が10年後どうなっているといいかを付箋に書き、理想の地域像を紹介し合う

- ・住民の絆が深まり支え合いの町に
- ・住んでいる地域に愛着を持っている住民
- ・自然の管理ができてきれいなふるさと
- ・子どもたちが自分の町を「好き」といえる
- ・特産品ができれば自主財源確保につながる
- ・自主防災会が住民主体で動いている
- ・自発的に地域活動に参加する人がいる
- ・お店が増える
- ・UIターンしてくる人が増える
- ・高齢者が元気でイベントに出てくる
- ・誰もが挨拶をかわす町
- ・買い物難民0人
- ・若者が主体的に動いている自治会活動
- ・「向こう三軒両隣」が流行する
- ・どこでも同じ教育
- ・子どもがやりたいことに挑戦できる地域
- ・子どもたちが誇りをもって地域文化を続けている
- ・地域全体で子どもの成長を支える雰囲気
- ・一人暮らしでも楽しみながら人生を過ごす高齢者
- ・「住みたいまち」に選ばれる
- ・高校生が地域で活動
- ・関係人口の増加
- ・世代間交流が進んでいる
- ・移動手段の確保

◇「理想の地域像」を実現するために何が必要かを考え、模造紙に書き込み、実際に取り組みそうなものを丸で囲む

- 子ども
 - ・居場所
 - ・子育て（親への）サポート
 - ・相談先、支援制度
 - ・出会いの場、集う場
- 防災
 - ・自主防災（組織）
 - ・日頃からのつながり・声かけ
 - ・備え（物、訓練、マップ）

- 地域愛
 - ・名所の環境整備
 - ・人とのつながり（お祭りなど）
 - ・伝統芸能継承
 - ・親世代も楽しめる何か
 - ・山の資源を生かせる産業



◇理想の地域像に向け、自分がやりたいことを書き紹介する

- ・目的を見失わない
- ・防災を運動会の種目にいれる
- ・集う場づくり
- ・おためし移住
- ・できないと思わない
- ・地域の環境整備にどの世代も参加
- ・みんなが支え合い笑顔になるような事業
- ・自主防災組織を実効性のある組織に
- ・地域の良さ、情報、特産品をSNSで発信
- ・いろいろな所へ足を運ぶ
- ・町民に新たな経験、体験を提供
- ・やってみてみたいことを引き出す
- ・年齢を問わず仲間を増やす
- ・地域の子どもとナナメ交流
- ・地域の人に声かけ、笑顔で
- ・地域の人の声を聞く
- ・地元でのお節介
- ・つながりを大切に
- ・他地域の取組を知る、まねる
- ・一斉清掃のあとのバーベキュー

（□は出た意見）

【ふりかえり】研修をふりかえって、思ったこと・感じたこと・これからに向けて考えたこと

- ・仲間（増やす、伝える、汗をかく）
- ・チームの一員として地域全体で学ぶ
- ・「学びつなげる場」仕掛け人になる
- ・思い切って変える勇氣
- ・他地域の事例発表はヒントがいっぱい
- ・まちづくりは楽しんで
- ・目的やねらいを持ち続ける。それを仲間や周りに熱く語る
- ・目的をもって社会教育をすすめる。だれをどうしたいのか、どう変わってほしいのか
- ・知識は実になる。彩るのは職員 社会教育の背景
- ・一人ひとりが興味を持つことにより well-beingにつながる
- ・共通している問題が多く情報を共有し、連携して解決



【アンケート】（一部抜粋）

- ・社会教育とは？と聞かれてすぐには思いつかなかったが、講義と事例発表の中で「自分が置かれた場所ですなかりを感じ幸せを感じていく」そこから地域の地盤ができ、地域力が蓄えられ地域課題に向かっているという言葉が心に残った。
- ・事例発表を聞き「地域の人を育てる」ことの大切さを学んだ。
- ・活動を通して参加者が学びとつながりを生み次へつなげていくことができるように、今後を生かしていきたい。
- ・知らない人とのグループワークは気づきの連続だった。みんな地域のことを真剣に考えておられ感心した。これからももっと楽しんで地域活動に取り組みたい。
- ・演習では同じテーマでも見方の違いで自分では気づかない意見が多くあった。
- ・演習は、みなさんの話が聞き意見交換もたくさんできて、有意義な時間をもつことができた。